

6月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう



遣わされて使命を果たす

助任司祭 柴田 潔

6月25日(日)には堅信式があります。2回目の堅信準備会のテーマは「遣わされて使命を果たす」でした。その中でイエズス会に入る前の体験を紹介しました。

今からできることを考え…

住宅会社の営業マンの時は、建物の引き渡しの最終金、数千万円が「受領できるかどうか？」わからない状態を迎えてしまいました。打ち合わせの途中で机を蹴飛ばされたりした、気難しいお客様でした。これまでも神経を遣ってききましたが、最終金が受領できなかつたら今までの努力が消えてしまいます。残された

時間はわずか。「今からできることはないか？」考えた末に徹底的に掃除することを思いつきます。仕事を終えて夜は12時まで、朝また5時から引き渡しの前まで。6時間かけて100坪の2世帯住宅を掃除しました。もちろんクリーニング業者はすでに入っています。でも、濡れ雑巾で拭くと床が汚れているのがわかりました。そのまま食器も入れていただけのように食器棚も丁寧に拭きました。掃除をする間に、これまでのことが思い出されました。「どのような期待を持って契約されたのだろうか?」「私は期待に応えてきたのだろうか?」

考えながら汗だくになって掃除を続けました。そのうちに「最終金がもらえるか?」の不安から「家族の平和と成長を願う」祈りに変わっていききました。そして引き渡し

の時間になりました。予想と違うお客様の態度に驚きました。「柴田さんにお願ひして良かった。知人が家を建てるなら勧めたい。家を現場案内に使ってもらってもいい」と。最後までできるだけのことをした神さまからの褒美に感じました。

それからしばらくしてイエズス会に入るために退社のご挨拶に伺いました。すると「柴田さんにはそちらの方が向いていると思う。良い営業マンに出会えて私はラッキーだった。カトリックの学校を出ているので、柴田さんが目指しているものがなんとなくわかる」と。12年間の営業を終えて、イエズス会に入るはなむけの言葉にも感じられました。

神の国を広げよう

教会から社会に出ると、怖い部分もありますが、そこは宣教の場。かつての私のように信徒のみなさんは宣教のフロントラインにいません。神さまの国を周りの人に伝える役割は、司祭よりも信徒の方がずっと重い。もちろんこの役割は堅信を受ける方だけでなく、私たち

みんなの役割です。価値観の違いがあっても、中に入って、共に働き状況を好転させていく。その積み重ねが宣教になります。その際、私が心に留めていたことがあります。「できることならその盃を遠ざけてください」という自分を見つけたら、イヤイヤではなく、「お言葉通りこの身になりますように」「是非そうしたい」に切り替えよう。

営業のように白黒はつきりする職業は本当にしんどい。でも、考えつく限りのことをしたら、その先にはお相手にも自分にも良いことが待っている。神さまの国が築ける。堅信を受ける方々と一緒に「遣わされて使命を果たす」意識で神さまの国を広げていきましょう。

教会報 MAGIS 6月号

† 聖週間・歓迎会	P2~3
† 中学生会 6年ぶりの巡礼	P4
† Family of St.Ignatius ～スペイン語圏から～	P4
† 教会活動グループ便り ④	P5
† 連載 光をつないで ⑥	P6

【6月の共同祈願】

み心の月に当たって祈ります。
私たちがイエスさまのみ心を心に留め、
他者に寄り添い、心を一つにして、
神さまの愛を伝えることができますように。
担当：ウェルカムテーブル

【ミッション 2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、老いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

教会行事
〜聖週間〜

主の受難をしのび、ご復活を祝う 聖週間のミサ

新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきた中で行われた今年度の聖週間ミサ。すべて主聖堂にて、予約不要のミサもあり多くの信徒が集いました。 ※はオンライン配信あり

✦ 受難の主日

枝の主日ミサ

4月2日(日)10時※

主司式 サトルニノ・オチヨ

ア主任司祭(当時、以下同)

救いの業を完成させるためにエルサレムに入城されたイエスを記念するミサで、聖週間が始まりました。オチヨア神父は信徒に枝の祝福と聖水を授け、「私たちは父である神さまに決して見捨てられません。この一週間、愛と救いの神秘を味



受難の主日

わいながらイエスの十字架と復活の喜びを味わいましょう」と話されました。

✦ 聖木曜日

主の晩餐のタベミサ

4月6日(木)19時※

主司式 レンゾ・デルカ神父

レンゾ神父は説教で「イエス自らが弟子の足を洗うことで、罪を取り除くことと相手を大事にし優劣をつけない姿勢を示しました。私たちもイエスに従って隣人を大切にし、ペトロのように謙虚に、足を洗っていたら、心を持ちましよう」と話されました。洗足式は行われず、聖体安置式でご聖体はザビエル聖堂に移されました。

✦ 十字架の道行

4月7日(金)15時

指導 サトルニノ・オチヨア

主任司祭

死刑の宣告を受け墓に葬

られるまでの道のりをイエスとともに歩む十字架の道行。祭壇から一留が始まり、12使徒の柱を留に見立てて順番に歩き、14留で祭壇に戻るまで、オチヨア神父と信徒が祈りを捧げました。

✦ 聖金曜日

主の受難の祭儀

4月7日(金)19時※

主司式 越智直樹神父

ことばの典礼、十字架の崇敬、聖体拝領の3部からなるミサは、人類のために命を捧げたイエスの愛を記念しています。越智神父は「イエスを裏切った弟子たちは復活の後、再会を機に救い主イエスを述べ伝えていきました。はりつけにされた愛をしっかりと受け止め、イエスの愛を力強く証していくことができますように」と話されました。

✦ 聖土曜日

復活の聖なる徹夜祭

4月8日(土)19時※

主司式 サトルニノ・オチヨ

ア主任司祭

ミサは「光の祭儀」から始まりました。聖堂は信徒の光で満たされ、渡辺哲郎助

祭の歌声に導かれ、復活賛歌を歌い祝いました。

オチヨア神父は「ご復活は信仰の体験です。見る“から始まり、理性を持って見抜き、その中に潜んでいる神秘を悟ります。もう一つの段階は“信じる”。ご復活の場面にマリアさまは現れません。初めから信じてイエスの命にあずかっていたからです。 私たちもマリアさまの信仰をいただき、永遠の命に復活するのです」と話されました。ミサの中で行われた洗礼式では14人が受洗しました。

● 復活の主日

4月9日(日)10時※

主司式 高祖敏明主任司祭

(4月9日より)

主のご復活にふさわしく晴天に恵まれました。高祖神父は福音朗読(ヨハネ20:1-9)について説教をされ、「イエスの死を正面から見すえ、その意味に気づく。そこにある恵みをいただく。それが復活の神秘にあずかることです。復活の喜びと平和が一人ひとりに訪れ、家族、友人、世界の隅々にも行き届きますように」とし

めくくられました。続いて、聖体奉仕者任命式が行われ、3名の新聖体奉仕者に任命書が手渡されました。

最後に評議員から両神父に歓迎とお礼の言葉が贈られ、信徒代表と新信徒代表より花束が手渡されました。



復活の主日

●洗礼式

4月9日(日)15時半

主司式サトルニノ・オチョア神父

オチョア神父は「最後の晩餐でイエスは『私は道、真理、命である』と言った。イエスは道を教えるのではなく、『私が道です』と言って、特別な務めではなく生きています。『キリスト道』と言ってもいい。そして、イエスの復活は新しい命を

約束してくれれます。そのことに希望と信頼を持ちましよう」と47名の受洗者に向かって力強く話されました。

●初聖体

4月16日(日)10時※

主司式柴田潔神父

23名の子どもたちが初めてご聖体をいただきました。柴田神父は「ご聖体は心を大きくしてくれます。希望、信仰、愛をふやしてくれます。知らない間にイエスさまに似てきます。今日のうれしい気持ちを家族に、教会学校のリーダーにも伝えましょう」と話されました。

●改宗式

4月23日(日)10時

主司式高祖敏明神父

高祖神父は第2朗読(一ペトロ1:21)「キリストを死者のうちから復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています」と答唱詩編「幸せな人の恵みを受け、その喜びに生きる人」の言葉を改宗者に贈りました。高祖神父とオチョア神父が按手をし、改宗者4名が当教会に迎え入れられました。

●歓迎会

新しく主任司祭となられた高祖敏明神父と昨年10月に着任された関根悦雄神父(協力司祭)の歓迎会が、4月30日(日)11時からヨセフホールで行われました。

3年ぶりに対面で開催され、聖歌でお迎えしました。初めに前主任司祭のサトルニノ・オチョア神父からお二人の紹介がありました。

「高祖神父は、広島学院を卒業後に上智大学で教育学を専攻され、今年3月まで聖心女子大学の学長をされてきました。関根神父も長い間教育の現場で働かれ、11年間栄光学園の校長をされた後、広島のエリザベト音楽



▲主任の鍵を手渡して。左から関根神父、オチョア神父、高祖神父

大学、広島学院でも尽力されました。

続いてお二人が挨拶され、高祖神父は、大学生時代にできた学生寮「三木ハイム」の初代寮長だったハビエル・ガラルダ神父との繋がりが、5年間かけて作成された『潜伏キリシタン図譜』の紹介、天正遣欧少年使節の本のクラウドファンディング募集などを話されました。

また関根神父は、「上智大学4年生のときに旧聖堂で受洗し、日曜聖歌隊にも所属していました。1984年に司祭叙階された後、1985年から栄光学園に派遣されました。1991年からは現在の聖堂の建設委員に任命され、後に施主として、パイプオルガンの選定などにも携わりました。聖イグナチオ教会には強い繋がりを感じています」と話されました。

英語圏は、ジョン・デ・ブリットイングリッシュセンターを代表してレイモンド・ガスさんが「シノダリティーの精神のうちに、一緒に活動できることに大変感謝しています」と述べ、国際青年会と教会学校の子どもたちが

ギターとタンバリンに合わせて歌と踊りを披露しました。スペイン語圏は、40年前にベネズエラから来日して、当教会で挙式した北脇ジャネットさんから、スペイン語も交えた歓迎メッセージが贈られました。

ベトナム語共同体は民族衣装を着た7人の女性がベトナムの伝統的な管笠を手に、優美な楽曲「神に従う私の道」に合わせて舞い、グエン・タン・ニャー神父が「困難な中でも主と共に肅々と歩くことを表現しています」と説明されました。

当教会所属信徒の声楽家が、ピアノ伴奏に合わせて聖歌「ごらんよ空の鳥」を独唱し、続いて参加者全員で合唱して終了しました。



▲ベトナム語共同体の信徒による歓迎の踊り

教会学校・中学生会

山口・津和野・広島 巡礼の旅「おもい、つなぐ」

コロナ禍により中断されていた中学生会・巡礼の旅が、3月24日(金)～28日(火)に行われました。参加した中学生とリーダーからの報告をご紹介します。 ※学年は当時

私たちは1月から3月に山口、津和野、広島の3カ所について事前学習をし、みなで準備をしました。巡礼の5日間で最も印象的だったのは、森の中で行った十字架の道行です。教会や学校で十字架の道行を何度か行ってきましたが、森の中という、自分自身と向き合うことができる空間で、当時のイエスさまの苦しみや悲しみをより感じることで、できる場所です。祈れたことはとても貴重かつ印象に残った体験でした。



▲津和野の乙女峠での十字架の道行

この巡礼を通して、今キリスト教を信仰できること、そして自分の思いを祈りとして神さまに届けることのできる喜びを改めて感じるこ

とができました。
(中3 井口遥花)

中学生会は3月、10名の中学生とともに山口・津和野・広島を訪れる巡礼を6年ぶりに実施しました。1月から授業が始まり、訪れる場所の知識を深めたり、ザビエルや殉教者、被爆者の思いを自分なりに解釈し、分かち合いをしました。

巡礼を通して、座学で得る知識よりも体験から得る知識はインパクトが大きいものであることを実感しました。たとえば乙女峠の十字架の道行。全員で山道を歩きお祈りをしましたが、最後の殉教者の墓にたどり着く頃には、険しい山道で皆疲



▲津和野カトリック教会の前で

れてしまいました。お祈りをしながら大変な思いをして歩く、これは十字架を背負って歩いたイエスさまや、拷問を受けた殉教者の苦しみには到底及びませんが、津和野で苦しんだ人々のことを十分に思い起こすことができた体験となりました。

参加者全員にとって、今回の巡礼は信仰をさらに深め、また信仰について見つめ直すとても良い機会になったと実感しております。5日間で3つの地を巡るという大変な行事ではありましたが、無事に何事もなく終えることができました。保護者の皆様、リーダーOB・OGの方々、各地の教会の神父様方、巡礼に関わってくださったすべての方に御礼申し上げます。
(2022年度中学生会代表 相葉瑛玲菜／えれな)



Family of St. Ignatius

～スペイン語圏から～

もど 戻りつつあります...

私たちは、少しずつコロナ禍の前にあったものを取り戻しつつあるように感じます。ソーシャルディスタンスを気にせず、マスクをはずして、自由に挨拶ができるようになりました。また、バーチャルな集まりから離れ、より和やかな雰囲気の中で直接会うことができるようになりました。

スペイン語圏のコミュニティは、コロナ禍の間、他のグループと同様に、他者との親密さや自発的な分かち合いの機会を奪われました。特に、長年にわたり、皆が集まる日曜日の午後のテレジア・ホールは、賑やかで、居心地が良く、誰が来ても温かく迎える雰囲気がありました。コロナ禍では静寂に包まれていました。

しかし、今またスペイン語圏の人々が集い、友愛に満ちた雰囲気の中で語り合い、笑いながら軽食をとっており、活気が戻ってきています。

この文章を読んでいるあなたも、どうか私たちのグループに声をかけてください。皆、大きな喜びと温かい心で迎えてくれるでしょう。国籍や言語が違って、私たちはイエスという共通点があり、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(ヨハネ 15:12) という教えを実践しながら生きることができるのですから。

(シスター イベッテ・サンチェス)



活動グループ便り ④

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

傾聴ルーム

出会いを大切に ただ聴くという援助を

教会には誰かに話を聞いてもらいたいニーズを持った方が多くおられ、話せる場所と対人援助の経験者が集められ2017年に傾聴ルームの活動が始まりました。

コロナパンデミックで2020年2月から活動が休止状態でしたが、コロナ感染症の状況が落ち着いてきた、「自粛生活で人との交流が減り気持ち落ち込んでいくばかりです」「再開はいつですか」などを検討して2022年9月より感染対応を図りながら活動を再開しています。

誰にも話せない気がかりや悩み、悲しみ、苦しみなどを話すことで気持ちが軽くなり、整理ができ希望が見えてくると言われています。実際に変わっていく方々に出会っていることは大変励みになっています。

スーパバイザーのマヌエル・シルゴ神父様からの「ボランティアは神の道具として話し手の苦しみ、悲しみ、気がかりを受け止める。話し手が神の慈しみに出会われ、愛によって変えられるように任せること」を意識し、これからも「今・ここ」の出会いを大切に話し手に寄り添いお気持ちを聴かせて頂きます。活動日は第2・第4水曜日12時ミサ後

お一人30分

13時～13時30分

13時45分～14時15分

14時30分～15時

場所：ヨセフホール
担当：傾聴グループ

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。

水曜ティーサロン

活動再開！平日ミサ後にかち合う場を提供

2020年の2月を最後にコロナウイルスの流行のため、突然活動の休止を余儀なくされていましたが、この5月からやっと再開いたしました。

2011年の東日本大震災を機に、人と人が助け合い繋がり合う事の大切さを痛感した時、当時のドメニコ・ヴィタリ主任司祭から「平日のお昼のミサにいらした方がかち合う場所を作ってみては？」のお声掛けがありました。

手さぐりで始めた「水曜ティーサロン」。テーブルにクロスをかけ、一輪でもお花を生け、コーヒーと紅茶で一息つける場所、皆さんがリラックスできる来やすい場所は？と考えました。いつしか、毎回60名くらいの方が参加してくださるようになりました。ミサにあずかった方、様々なご奉仕で教会にいらした方、神父様やシスターも顔を見せてくださることもありました。毎回楽しみ

にいらつしやる方も増え、私たちにも有意義な時間となりました。遠くから微笑んでサロンを見守ってください。神さまをいつも近くに感じます。

第2、4水曜日の12時ミサ後から14時。テレジアホールでお待ちしています。



ハビエル・ガラルダ神父 聖書入門講座

み言葉を心で受け止め、 行いで実践…を目指して

ガラルダ神父の聖書講座は、金曜日・土曜日・火曜日に開講しています。

金曜講座は、ガラルダ神父が上智大学の助教時代から始められた「金曜会」以来49年間続いています。

イエス・キリストを「知る・好きになる・従う・知らせる」のローマ字の頭文字「4



S」を目的に、聖書のみ言葉を心に受け止め、行いで実践することができると目指します。

直近の主日の聖書朗読箇所を中心に聖書から数カ所を選び、様々なエピソードを交えて詳しく、分かりやすく解説されます。また、講座参加者と共に典礼暦に合わせて年一回「ロザリオの祈り」や「十字架の道行の祈り」なども行います。

求道者にはカトリック生活に必要な要理を交えた講話や洗礼準備を行います。

日時：(金)18時45分～20時

(土)16時30分～17時45分

(火)10時30分～11時45分

場所：信徒会館301

金曜日のみオンライン同時配信を行っており、過去の講座音声はガラルダ神父HPに掲載しております。

お問合せは、同HPよりお寄せ下さい。http://www.jesuits.or.jp/~j.garralda/

連載 光をつないで ⑥ 母から受け継いだ信仰を生きて

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。6回目は、当教会信徒マリアさん（93歳）に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

——ご結婚を機に来日されたとのことですが、母国・韓国での生活について教えてくださいいただけますか？

（韓国の仁川^{インチョン}で育ちました。両親は洋品店を営んでおりました。

子ども時代、記憶に残っているのは、人々にお茶を配る母の姿です。実家の店先は日当たりが良好で、昼になるとよく日雇い労働の



▶肺がんのため急逝したマリアさんのお母さま。葬儀後、墓地に続く道には彼女を慕う労働者たちの行列が絶えなかったという

人たちがショーウィンドーの前に並んで腰かけ、お弁当を食べていました。父は店がみずばらしく見えると言って、彼らを見つけるといつも追い払っていました。母は父の態度が悲しくて、労働者の後を追いかけていって、彼らにヌルンバ（お焦げが入った雑炊のような韓国のお茶）とキムチを配るのでした。手伝うように言われたことは一度もありませんでしたが、昼になると鍋いっぱいのヌルンバとキムチを手に労働者の方々に訪ねる母の後をついていき、給仕する母の姿を眺めて過ごしました。あのお焦げのよい香りは忘れられません。

秘密裏に教わった 母国語の読み書き

母から教わったことは、信仰と韓国語の読み書きです。若き日に受洗した母は、家族も洗礼に導きました。幼い頃悲しくて泣いていると、母は「その思いを神さまにお捧げしなさい」と諭し導いてくれました。祈りはばらの花となり、一輪、一輪、神さまに届くのだと教えてくれました。

韓国語の読み書きは、台所のかまどの前で、母と二人きりのときにこっそりと習いました。当時韓国は日本の植民地で、韓国語の読み書きを教えることは禁止されていました。いつかきくと母国語での読み書きが必要になると考えた母は、弟や妹たちが遊びに出かけている隙に私を台所に呼んで、かまどの薪が燃えて灰になつたところに、枝で文字を書いて教えてくれました。教え終わると、母は上から灰をかぶせて文字を消しました。

第二次世界大戦が終わった時、多くの同年代や年上の人たちは、母国語の学び

直しのために塾に通いましたが、私にはその必要がありませんでした。母は外国語を勉強することを私に勧め、私は英語を学んでアメリカの大学に留学するための奨学金を得ました。

持病の発覚と絶望の先に

アメリカへの航空券をはじめとして、留学には様々なものが必要でした。しかし思いもよらぬ多くのご縁に恵まれ、奇跡的にすべてを揃えることができました。ところがアメリカ大使館での健康診断で、「結核菌があるようだ」と言われたため、ビザが発行されませんでした。昔から体が弱かったのですが、自分が結核持ちだとは知りませんでした。当時アメリカは規制が厳しく、健康診断をパスした健康やかな人しかビザが下りなかったのです。

高い航空券まで買った後のことでしたから、茫然自失し家から出られない日々が続きました。しかし知人の「アメリカばかりが世界じゃない」という言葉に慰められ、もう一度将来への希

望を持つようになりました。知人の紹介で日本と貿易をしていた夫と出会い、結婚して来日しました。日本語化に出会い、その美しさに心奪われて今日まで日本に住んでいます。すべてマリアさまが取り計らってくださいました。道だと思えます。

——大切にしている聖書箇所を教えてください。

受胎告知（ルカ福音書 38）の箇所です。主のなさることを信頼し、すべてを受け入れるマリアさまの姿に深い感動を覚えます。



ご体調が優れない中、ご自宅での取材を引き受けてくださったマリアさん。過去に体験した美しく荘厳なミサや秘跡の記憶を、色あせることのない感動とともに語ってくださいました。「一つの宗教であるということを超えて、カトリックは神さまの御姿そのものだと思えてならない瞬間がある」。そう語る彼女の目の輝きに、深い気づきを
得た思いがした。



●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(5月11日開催)

1. 来年の献堂25周年に向けた準備が始まりました。記念ミサやイベントの開催などを検討していきます。
2. 堅信式は菊地功大司教の司式にて6月25日(日)15時30分より行われます。
今年度も、お祝い会は行いません。

●2023年度 年次活動報告会●

日 時 : 7月1日(土)15:00 ~ 16:30
場 所 : ヨセフホール
定 員 : 150名(先着順)
申込期間 : 6月11日(日) ~ 6月25日(日)
申込方法 : 教会ホームページから、もしくは事務室にて

〈プログラム〉

- * 高祖主任司祭着任のご挨拶と講話
- * 助任司祭方のご挨拶
- * 教会活動の報告
2022年度活動報告・2023年度活動計画・会計報告

- ・YouTube 配信を予定しています。
- ・申込時に質問を受付けます。
- ・私たちの教会について知る機会です。是非ご参加くだ

●5月のお知らせ(5月9日要旨)●

5月8日(月)から新型コロナウイルス感染症の位置づけが、「5類感染症」になりました。基本的感染対策については、個人や事業者が自主的に判断して実施することが可能となりますが、聖イグナチオ教会では、「3月のお知らせ」の感染症対策を当分の間継続いたします。

1. マスクの着用について
 - ・今しばらくマスク着用をお願いします。
 - ・主日ミサでの聖歌は会衆もマスク着用で歌うことができます。
2. 聖体拝領について
 - ・聖体拝領直前の手指消毒は任意とします。
 - ・入堂時に手指消毒を必ず行ってください。
3. 信徒会館内での飲食
 - ・感染対策を十分に行っての飲食は可能とします。

ミッション 2030 黙想と分かち合い
～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
小さな分かち合い

第4回テーマ「話そう、そしてつながろう」

開催日時 : 6月25日(日)11:15 ~ 12:40
場 所 : 信徒会館203
参加申込 : 6月11日(日)より受付開始
定 員 : 40名
プログラム : ①関根悦雄神父様の講話

- ②黙想
- ③茶話会

ハーブティーのサービスをいたします。ゆっくりとお茶を飲みながら話し、つながりを深めて参りましょう。
*詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシでご確認

6月の典礼と行事

2 (金) 初金曜日	祈りの集い 19:00
3 (土)	教会大掃除 9:00 ~ 11:00
4 (日) 三位一体の主日	堅信準備会③ 11:15 ヨセフホール
6 (火)	献堂記念日 (24周年)
7 (水)	堅信準備会 (平日③) 18:45 ヨセフホール 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」ともに歩む教会を目指して 18:30 アルペホール シノドスの社会性 (1) 一他者とともに、誰とともに? — 柳川朋毅 氏
11 (日) キリストの聖体の祭日	堅信準備会④ 11:15 ヨセフホール
14 (水)	堅信準備会 (平日④) 18:45 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 傾聴ルーム 13:00 ~ 15:00 ヨセフホール
16 (金) イエスのみ心の祭日	
17 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
18 (日) 年間第11主日	
21 (水)	クリプタに安置され6月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」ともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドスの社会性 (2) 一最も小さい者を訪ねて — 柳川朋毅 氏と仲間たち
24 (土) 洗礼者聖ヨハネの誕生の祭日	
25 (日) 年間第12主日	日曜サロン 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール 聖ペトロ使徒座への献金 ミッション2030 小さな分かち合い 11:15 信徒会館 203 堅信式 15:30 主聖堂
28 (水)	水曜ティーサロン 12:00 ミサ後 傾聴ルーム 13:00 ~ 15:00 ヨセフホール
29 (木) 聖ペトロ聖パウロ使徒の祭日	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

聖歌隊からのお知らせ

たいへん長らくお待たせしました。5月27日(土)18時、聖霊降臨の主日ミサから、新しい典礼に則したミサ曲を会衆の皆様とともに歌うことになりました。

カトリック中央協議会からは、3種類のミサ曲(ミサ曲A・ミサ曲B・ミサ曲C)が紹介されています。最初はこの3種類のミサ曲を、2か月単位で覚えていくことになりました。

6月・7月はミサ曲A、8月・9月はミサ曲B、10月・11月はミサ曲Cといった具合です。12月(待降節)以降については、別途ご案内の予定です。

新しいミサ曲の楽譜と音源(歌い方の手本)はカトリック中央協議会のホームページからダウンロードすることが出来ます。それぞれのミサの聖歌隊も、この音源に合わせて練習を始めています。初めてのミサ曲ですので、戸惑うことも多いと思いますが、どうぞ大きな声で歌って頂きますよう、お願いいたします。



主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根 悦雄

マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

●幼児洗礼式●

7歳未満のお子様を対象とした幼児洗礼式を行います。事前の準備会があります。詳細は教会事務室にお聞きください。

7月16日(日) 10月22日(日) 10時ミサにて

●献米のお願い●

四ツ谷おにぎり仲間・カレーの会・あしたのいえ合同での献米を6月から再開しています。多くの皆さまの支援を、生活に困っている方々につなげていければと考えています。

日 時：毎月第1日曜日 9~10時頃
*時間は変更の可能性あり、毎月チラシにてお知らせします
場 所：主聖堂前
受付品：お米(白米)、梅干し、海苔、ラップ、缶詰・レトルト等の食品*除く生鮮食品

●財務報告●

「四旬節愛の献金」560,515円はカリタス・ジャパンを通して日本・海外の多くの人々の命を守るために使われます。

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083
千代田区麹町6-5-1
TEL 03-3263-4584
FAX 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。